

令和3年度は、地下水浄化に影響しない一部の施設の撤去等を実施する。

工事内容：西沢沈砂池復旧、防災調整池撤去、鉛直遮水壁付近への縦坑設置

# 西沢沈砂池復旧及び防災調整池撤去の内容

事業完了後の雨水排水が、下流河川に影響を生じさせないように整備する。

## ○西沢沈砂池復旧

場外西沢の整備は、大雨時に仮に土砂を含む大量の表流水が流れ込んでも、下流の道路に土砂が流出することのないよう、沢の流末にある旧沈砂池を復旧する。

## ○防災調整池撤去

防災調整池は、廃棄物と雨水が接触しないよう場内をブルーシートで遮水した際の表流量増加分を調整し、下流に影響を与えないために設置されたものである。

現在では表流水の調整機能が不要となったため、表層の構造物を撤去し、事業前の地形に復旧する。



平成12年当時(事業前)



平成17年当時(廃棄物撤去中)

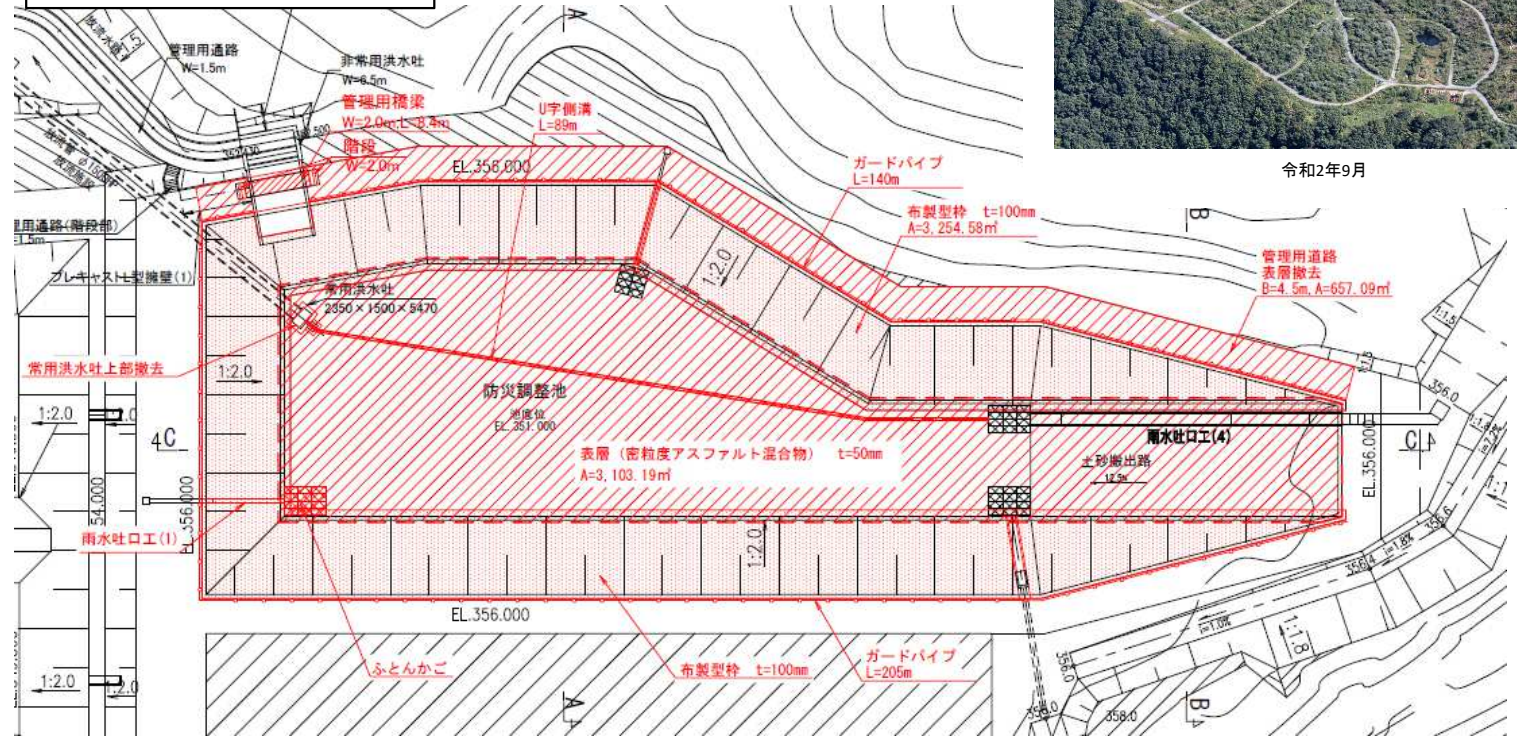


令和2年9月

植樹等により、地盤への雨水浸透が増。  
(表流水減)

## 西沢沈砂池復旧

## 防災調整池撤去



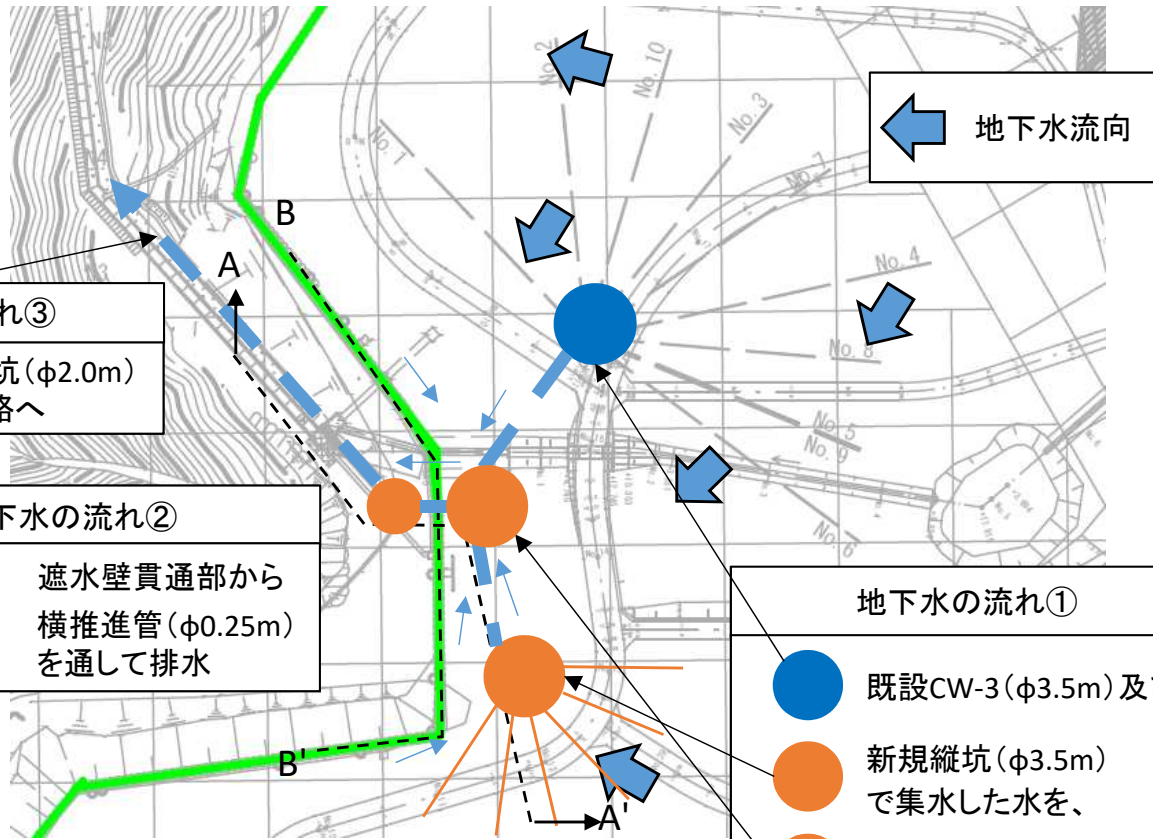
# 鉛直遮水壁付近への縦坑設置の内容（基本案：第62回協議会にて協議済（H31年2月））

現場地下水の揚水による浄化対策が終了し、揚水ポンプを停止させた際には、遮水壁内部の地下水湛水が生じることから、遮水壁内部の地下水を自然流下により壁外に導水させるための対策を講ずることとしており、令和3年度はその準備工として、遮水壁付近に縦坑を3本設置する。

## ○地下水導水方法

- (1) CW-3及び遮水壁内に新設する縦坑の計2本の井戸に第一帯水層及び第二帯水層の地下水を集めた後、遮水壁最下流部に新設する前面縦坑に合流させる。
- (2) 遮水壁外側に背面縦坑を新設し、背面縦坑と遮水壁最下流部の前面縦坑を、遮水壁を貫通させる1本(+予備1本)の横通水孔で連結させることで、地下水を遮水壁外へ導水する。

平面図



地下水の流れ③

新規背面縦坑(φ2.0m)から階段水路へ

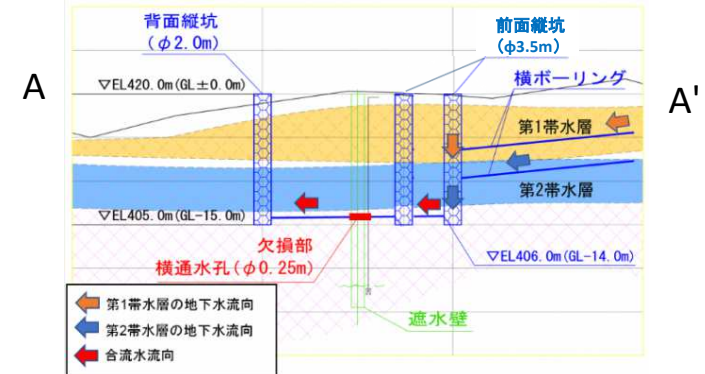
地下水の流れ②

遮水壁貫通部から横推進管(φ0.25m)を通して排水

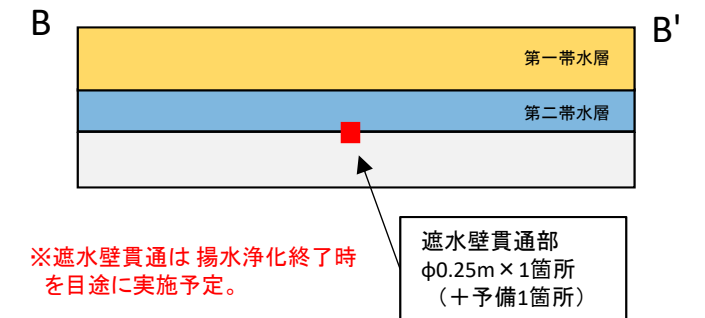
地下水の流れ①

- 既設CW-3(φ3.5m)及び
- 新規縦坑(φ3.5m)で集水した水を、
- 新規前面縦坑(φ3.5m)に集水

断面図



正面図



※遮水壁貫通は揚水浄化終了時を目的に実施予定。

遮水壁貫通部  
φ0.25m×1箇所  
(+予備1箇所)